

会議録

1 会議名

令和2年度 第2回 上越市博物館協議会

2 議題

(1) 歴史博物館事業報告

①令和3年度事業計画（非公開）

②民俗資料整理事業の成果と課題（公開）

(2) 水族博物館事業報告

①令和3年度事業計画（非公開）

②水族博物館における鯨類飼育環境の検証について（公開）

3 会議方法

文書資料の送付と意見書の提出による書面会議

※新型コロナウイルス対策のため

4 開催日時

令和3年3月23日（火）

※意見書の提出期限日を以て会議の成立とする

5 意見書を提出した委員

歴史博物館部会：清沢總・浅倉有子・斎藤良人・増田小夜子

水族博物館部会：天野和孝・関谷伸一・松野玲子・大山賢一・岩井文弘

6 意見書の内容

【歴史博物館部会】

① 令和3年度事業計画（非公開）

② 民俗資料整理事業の成果と課題（公開）

《清沢副部会長》

・この15年間にわたる資料の台帳化と岡沢拠点収蔵施設への移動・統合は大変なことだっただろうと改めて感じた。それだけに課題の(5)～(8)にかか

わる今後の人とお金と時間の充足の重さを痛感する。

- ・今後ますますの財政の好転が難しくなるという予測の中、どのような活用が図られていくのか心配です。そこで、具体策の小さな一例として、“先人が残した宝の持ち腐れを打破しよう”という意識を醸成していくさまざまな働きかけ（etc. 収蔵施設の無料開放日の現物撮影会、事前・事後の広報フォトコンテスト…SNS）を仕組んでもらう試みができないものかと考える。民俗資料もその価値を理解するには、相当の仕掛けをしないとただの“がらくた物”と見做されることが多いようだ。

《斎藤委員》

- ・民俗資料整理事業は 15 年間にわたり、台帳化と収蔵施設への移動・統合を地道に行って来たとの報告である。この台帳化・データベース化は今後の資料活用による各研究活動の礎となるものであり、その努力に心から敬意を表する。

《浅倉有子》

- ・岡沢拠点収蔵施設の公開には大いに賛意を表する。但し、民俗資料の特性上、使用方法等の解説付きの公開を期待したい。令和 3 年度は夏休みに 2 度公開とのことだが、可能なら回数を増やしてほしい。燻蒸処理のための予算請求も不可欠である。「探検！むかしのくらし」展での活用も大いに期待したい。以前にも触れても良い展示があったと思うが、ハンズオンについても検討願いたい。

《増田小夜子》

- ・地域の歴史や暮らしに直結する民俗資料は、さまざまなものを教えてくれる。それらを直に拝見できる収蔵施設の無料公開日の導入は、うれしいニュースである。前回の会議でも話したが、所蔵する民俗資料をもとに希望する企画展の一つは「結婚（婚礼）」である。手元に明治 36 年に婚礼をあげた際の明細帳がある。それほど正確なものではないようだが、まさに三日三晩行われ、その前後も含めて酒は石の位、饅頭千個などの記載から村をあげての大イベントだったことがうかがわれる。当時の結婚について、見合いから婚礼までの順序（当地ならではの風習）、婚礼衣装、婚礼道具、披露宴の献立など、想像が膨らむ。

データ対比による新旧結婚スタイルの違い、新旧の婚礼衣装の展示や写真、昔の献立再現、花嫁行列再現（昨年、保阪邸で実施）などを実現できたらいいと思う。

【水族博物館部会】

- ① 令和3年度事業計画（非公開）
- ② 水族博物館における鯨類飼育環境の検証について（公開）

《天野部会長》

- ・鯨類飼育環境については、委員会の結論、環境への適応力が原因だとすれば、すでに行われているだろうが、提言にあるように飼育水の設定温度やその変化や水質のモニタリングの強化は必要であると思う。

《関谷副部会長》

- ・イルカたちの死亡原因は、シロイルカが「ガス壊疽」、「尿毒症」、「バンドウイルカは「感染性肺炎」、「腎炎」と「膀胱炎」であった（上越タウンジャーナル2020年7月）。ということは細菌による感染が主な原因か。今回の検証委員会による答申である「新しい飼育環境への不適応、汎適応症候群的反応」などとの関連性がよくわからない。病理解剖結果の詳細を知りたい。
- ・死亡したイルカたちの購入費は約6,400万円と聞いている。解剖後の骨格も上越市の財産だと思う。骨格標本として貴重な価値があるので彼らの死を無駄にせず、水族館、市役所、科学博物館に展示していただきたい。

《大山委員》

- ・鯨類飼育環境の検証と今後の対応がよく分かった。
- ・施設の改修工事では、少なくとも日除けは5月、防風壁は10月と、できるだけ早く改修を終えて、新たな環境に慣れる時間を十分にとるとよい、
- ・鯨類だけでなく全飼育環境づくりに役立てていくようにするとよい。
- ・うみがたりの人気者はイルカだけでなく、ペンギンなども人気者である。マンボウ、サメ、クラゲなど、来館者がうみがたりに会いたいと思う生き物を1種類でも多く増やし、それらの魅力をPRしていくようにする。

《松野委員》

飼育環境の改善に生かす。

- ・鯨類の死亡に対し、多方面の専門家の方々がかわる検証委員会を設置して原因究明に取り組んでおり職員の皆様の並々ならぬ努力に敬服する。検証結果を踏まえた具体的な対応策も見えてきた。今後、生死にかかわる事案が発生した場合の対応に十分生かせる内容であった。弱点を強みに変えるチャンスとしてとらえ、日本海を望む水族館の特性を生かした飼育環境整備・運営で、特色ある水族博物館になっていければよいのではないかと。施設の改善に早急に取り組むとともに、今後もデータの蓄積や研修を積み重ね、それらを展示資料に生かしていただければと思う。

情報発信で市民と課題を共有する

- ・今回のバンドウイルカ・シロイルカの死亡に関する報道は、市民に痛ましいできごととして受け止められ、原因についても関心の高いところである。生き物の生死にかかわる敏感なできごとだが、今回の検証結果について広く市民にわかりやすく伝える場があっても良いのではないかと。冬季ということもあって、3階のイルカスタジアム、フレンドプールが空虚で淋しい感じだった。この場を活用して、飼育されていたイルカの写真や検証結果などを表示するなどの取り組みはどうか。生き物の死について学ぶ機会になるとともに、経緯や改善策が示されることで水族博物館への一層の理解が深まり上越市の宝として応援する意識が高まるように思う。

《岩井文弘》

- ・専門委員の検証によると原因は概ね「環境変化によるストレス」のように感じられる。環境改善をお願いします。もし、状況の改善が見られなければ、今後も検証委員会は継続すべきと思う。

【会議のまとめ】

- ・意見集約の結果、両館の令和3年度事業計画及び報告事項について、了解を得られたものと考えます。個別の要望については次回協議会において回答するも

のとします。

7 問合せ先

教育総務課

TEL : 025 - 545 - 9243

E-mail : ks-kikaku@city.joetsu.lg.jp

上越市立歴史博物館

TEL : 025 - 524 - 3120

E-mail : museum@city.joetsu.lg.jp

8 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。